

P1-038

乳幼児健康診査と学校健康診断データの連携の現状と今後の展望

土田 哲也^{1,2)}、尾板 靖子¹⁾、野田 雅裕^{1,2)}、川上 浩司^{1,2)}一般社団法人 健康・医療・教育情報評価推進機構¹⁾、
京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 薬剤疫学分野²⁾

【背景】

本邦では、母子保健法による1歳6ヶ月児と3歳児の乳幼児健康診査と学校保健安全法による学校健康診断が行われている。しかし、法令の所管省庁が異なるため2つの健診情報は接続されておらず、個人単位の健康促進や自治体単位の健康施策の立案等に十分に活かされているとはいえない。一般社団法人 健康・医療・教育情報評価推進機構(HCEI)では、各データを個人単位で接続させ、自治体単位で統合データを解析し、個人および自治体へ解析結果を返却する取り組みを行っている。

【目的】

HCEIのデータ接続の取り組みとその現状について評価する。

【方法】

HCEIでは、自治体内で氏名と生年月日を識別子として、乳幼児健康診査データと学校健康診断データを接続している。これまでに接続を行った自治体について、接続率を算出し、健康指標の関連について探索を行う。

【結果】

2020年2月現在、8自治体が乳幼児健康診査データと学校健康診断データの接続に参画している。うち、7自治体で学校健康診断データ数に対する接続率を算出した。2015年度は自治体A:73.4%、2016年度は自治体A:29.0%、自治体B:67.7%、自治体C:39.6%、自治体D:30.9%、自治体E:77.3%、2017年度は自治体A:52.3%、自治体F:60.4%、自治体G:100%であった。自治体毎の中央値は60.4%、個人単位の接続率は54%(2417/4456)であった。自治体Gを対象とした解析では、肥満と口腔内不衛生の項目について、3歳時点と中学3年時点の指標に関連を認めた。

【結論】

乳幼児健康診査と学校健康診断のデータを接続することで、両帳票の健康指標には関連があることが明らかとなり、幼少期からの健康維持が学童期の健康維持に重要である可能性が示唆された。しかし現状では、帳票内の項目が自治体毎に異なっているため、自治体間の比較や国単位での集計が困難な状況にある。さらに、高い接続率を達成するためには個人単位での長期間の追跡が必要であることも今後の課題として示唆された。

HCEIでは、マークシート方式による乳幼児健康診査の標準化と電子化を開始している。さらに、児の産前の状況を把握するために妊産婦健康診査の電子化にも着手している。今後、より多くの自治体の協力を得て、小児保健施策を推進する上での情報提供を継続していきたい。

P1-039

特別支援学校における医療的ケア児への養護教諭が果たす職務に関する文献研究

草野 淳子、高野 政子

大分県立看護科学大学

【緒言】特別支援学校において、保健管理における工夫やコーディネーター的役割など養護教諭の職務は多岐にわたっている。本研究の目的は、医療的ケア児の在籍する特別支援学校における養護教諭の果たす職務を文献検討によって明らかにすることである。

【方法】医学中央雑誌Web版より「養護教諭」「特別支援学校」「肢体不自由」「医療的ケア」をキーワードにして、2009年から2018年までの会議録を除く文献を検索した。本研究の目的に合致する21文献を、「年次」「研究方法」「研究対象」「研究の焦点」で分類した。特別支援学校に通う医療的ケア児への養護教諭が行う健康管理の実態について述べられている文献を抽出し、類似した内容で整理し、サブカテゴリー、カテゴリーに分類した。

【結果】特別支援学校における医療的ケア児への養護教諭が果たす職務は、84の記述内容が抽出され14サブカテゴリー、4カテゴリーに分類された。カテゴリーは〈〉で示す。〈職種間のコーディネーターの役割〉では、記録物を活用し、看護師・教員・保護者と連携を取っていた。〈医療的ケア児の日々の健康管理〉では、健康観察の実施や授業の観察を行い健康状態の把握を行い、感染予防を行っていた。〈医療的ケア児の状態に合わせた健康診断の工夫〉では、1年前と比べて体重の増加がない生徒はチェックすることで早期発見・早期対応に努めていた。〈医療的ケア児への看護〉では、医療的ケア児が日常的に必要とするケアの実施や心理的訴えに寄り添い、不安への対応を行っていた。

【考察】養護教諭はコーディネーター的役割があることから、研修会に参加するなどにより、幅広い知識、技術、新たな情報を習得することが必要だと考える。また、児童・生徒の健康管理を行うにあたり、教職員や看護師、主治医、保護者との連携は欠かせず、コミュニケーション能力を身につける必要がある。健康診断においては、結果を確実に出すことで、児童・生徒の健康課題を明らかにし、治療につなげることが可能になる。医療的ケアの必要な児童・生徒では、学校生活において状態の変化や急変が考えられるため、危機管理方法や健康管理の方法などの習得が大切であると考えられる。また、医療的ケア児は、命に危険を及ぼす可能性が高いため、感染症流行期には、教職員へ感染拡大予防の注意喚起を行うことや、保護者への情報提供を行うことが効果的であると考えられる。